

ゴルフの歴史を歩こう。

296

5番ホール/240ヤード/パー4  
距離の短いパー4でグリーン手前に池が2個配されている。季節や天候によるが追い風が吹くことが多く、ティショットの落と場所と池越えのアプローチが難しい

「一番便利、一番経済、一家揃って楽しい」をモットーに淀川河川敷に生まれたセミパブリック

## 高槻ゴルフ倶楽部

大阪府高槻市大塚町4-18-1  
☎072-671-0300  
開場日●昭和34年6月7日  
コース●18H/5422Y/P70  
設計●阪下広三郎、好村順一、Y.S. Contour Magic



昭和30年代に入って、一級河川の管理者・赤間文三大阪府知事が「ゴルフ場の河川敷利用を積極化」に転機、京都と大阪を結ぶ淀川河川敷に、昭和32年8月京阪GC、9月京阪樟葉パブリックGC（現在はくすはG）が競って開場、2年後れて高槻ゴルフ倶楽部、さらに4年後牧野

パークGが追った。関西ゴルフ発達の歴史の一大転機は、淀川の河川敷コースによって拓かれた。中でも「枚方大橋ゴルフリンク・高槻ゴルフ倶楽部」の行き方はユニーク。プライベートクラブよりもクラブライフを大切にすることを謳ったセミパブリックだった。

終戦後、大阪で油脂関係の事業を始めた創業者・佐藤長成は、一等地淀屋橋の住友本社近くに、娯楽センターナニワヤを開業する。上顧客の住友マンに誘われて大阪GC淡輪でゴルフを楽しむが、そこで若いサラリーマンにはゴルフは高嶺の華、安くプレーできるゴルフはないか。折から淀川にふたつのパブリックが開場する。刺激されて、佐藤が企画した事業が、5万円で入会できるセミパブリック高槻ゴルフ倶楽部だった。

場所は、淀川右岸枚方大橋北詰下流の河川敷。京都から25分大阪へ20分、地名は今は大阪府高槻市、昔は摂津郡国嶋上郷高月邑。起源には諸説があるが、月が槻（つきの木、ケヤキ）に転訛したものか。縦には京都伏見と大阪を結ぶ水運、横には対岸の枚方・出口と渡し船で北摂と北河内と結ぶ陸路の中継地として大いに栄えた。キリシタン大名・高山ジユスト右近は、高槻

城主だった。昭和34年6月7日、18ホール・5450ヤード・パー70を本開場。コース設計は、施工・阪下建設の阪下広三郎、好村順一。開場直後の9月、近畿地方死者5000人を出した伊勢湾台風に見舞われてコースが冠水、ほとんどのグリーンを流失する不運も。冠水との戦いは、河川敷コースの宿命だが高槻GCは、建設省の河道改修計画にも悩まされた。開場時には、枚方大橋の下流に造った18ホールが昭和39年には、大橋の上流に9ホール、下流に9ホールと分断され、48年には再び下流に18ホールへと戻され、コース側は奔命させられた。落ち着くのは、上流にダムが建設されてから。昭和も終わろうとしていた。昭和54年倶楽部の運営スタイルが、セミパブリックから完全なパブリックに転換する。しかし、ハンデイクヤップを取得した登録会員によるクラブ競技が年間160回開催されるなど、「プライベートクラブ以上のクラブライフを楽しむ」伝統は失われていない。コース改造もこのコース人気の理由で、開場50年間で全18ホールが造り替えられたといわれるほど。改造設計は、S Contour Magic、2代目社長・佐藤祐康ペンネームだろうか。



4番ホール/275ヤード/パー4  
距離が短いが向かい風の時が多く、グリーン手前に大きめの池があり、アプローチの距離感も難しいホール

創業者の佐藤長成はセミパブリックながらクラブライフを大切にしたい



高槻GCの名称とは別に枚方大橋ゴルフリンクという表示も使われていた



昭和39年ではアウト、インが上流と下流に分かれている



開場時のクラブハウス

文●田野辺 薫